

27. <おいしい水>

私の出身地である名古屋の水道水は全国的にもおいしい水といわれています。これは、名古屋の水道水は、木曾川の表流水を取り入れており、また、木曾川周辺には大都市がないので水質を汚染する排水もあまり出なく、したがって塩素の量も少なくすむため、水のおいしさも保たれるといわれています。逆に、先入観もあるかもしれませんが、東京の水道水はカルキ臭く感じ、ミネラルウォーターのお世話になっています。

一般に、水の味には主観的な要素が影響しますのでおいしい水の定義には難しいところがありますが、旧厚生省「おいしい水研究会」の「おいしい水の要件」としては、ミネラルなどの含有量を示す蒸発残留物、カルシウム、マグネシウムの含有量を示す硬度、遊離炭酸などが適量であることが挙げられています。一方、水道の水がおいしくない原因のひとつとして、水道の水源となる河川や湖沼などの水質汚濁があげられ、主に都市部の水源となるダムの水は環境基準の達成率が低く塩素等の薬品を使うためまずくなるのは当然のことかもしれません。

水道原水などの淡水はこの地球上で約 3%しかありませんが、私たちがあまり不自由なく水を使えるのは、それが 10 から 15 日に一度くらいの頻度で、雨となり地表に降り、大部分は川となって流れ、海からまた大気へと循環しているからです。この自然の水循環の中に下水道があり、下水道の果たす役割として、水道水源を含めた健全な水循環の回復、良好な水環境の創造が重要な要素となっています。

こうした中、下水道として水環境の改善に取り組むことをアピールしていくため、高度処理や合流改善が必要な地域において、その普及率を人口の割合で示した「水環境保全率」が昨年度から導入されています。また、今年 4 月に下水道法施行令が改正され、「公共用水域の水質保全に資する」という下水道法の目的を実現するため、合流式下水道の改善、水処理の高度化などについての施設の構造や水質の技術上の基準等が定められました。

今後、より良質な水質を確保するためにますます下水道における技術力、技術開発が期待されるようになってきているように思います。

最後に一言。

“水は天からの貰い水、元の水よりきれいにして自然に戻しましょう”

< 稲毛 克俊 >

※No. 31号(2004/7/30)に掲載